

近森オルソリハビリテーション病院 看護部

副院長兼看護部長 中谷 明未

1. はじめに

2024 年 1 月の年明けより、病院の病床機能変換（回復期病棟から地域包括ケア病棟へ）を行い、整形外科患者だけでなく内科患者の受け入れに務め、回復期のリハビリテーション機能を持つ病院として「地域医療へ貢献する」という使命に務めた年であった。多職種個々の専門性を活かし、患者と向き合いながら「その人らしさ」を大切に、常に最善を提案し、安全で安心な医療と看護・ケアの提供に務めている。

2. 病院の状況

当院は、運動器の整形外科及び内科中心のリハビリテーションを提供する病院である。病床は急性期一般病床 14 床、地域包括ケア病床 86 床の計 100 床を有し、外来リハビリテーション機能を備えている。急性期医療を引き継ぎ、患者を全人的に捉え安心して楽しく暮らせる早期の社会復帰のために最適なリハビリテーション医療を 365 日休まず提供するという理念に沿って、日々業務に従事している。2024 年の平均稼働（利用）率は 86.9%（80.3～91.2%）と昨年並みとなっている。

3. 看護部の活動

回復期病床を地域包括ケア病床に機能転換し早 1 年が過ぎた。それぞれの病棟においても整形外科中心から徐々に内科患者の受け入れを行い、地域包括ケア中心へのシフトチェンジがスムーズにできていると感じるようになってきた。

1) 目標管理と評価

2024 年の当院の目標は、地域包括ケア病床の運用に重点を置き、施設基準継続のための人員確保や、内科患者や様々な患者の状態に応じることのできる看護師の体制作りについて、施設・設備の充実、人員の確保と教育、就業環境の改善など様々に取り組んだ。

目標管理では、図 1 の看護部目標から、自部署の具体的な目標をたて、更に、3 ヶ月毎に強化目標をたて、各部署で実施・評価してきた。

2024 年度の目標

近森会グループ：今までの発想にとらわれない自己変革

～高知の地域医療をまもる最後の砦になろう～

近森オルソリハビリテーション病院：

医療スタッフのスキルアップと在宅医療機関との連携

近森会グループ看護部：地域のニーズに応えられる看護の進化／深化

近森オルソリハビリテーション病院看護部：

病院と地域をつなぐ看護・ケアの実践～その人らしい生活を支える 3S 活用～

* 3S：スピード・スマート・スマイル

図 1 2024 年度の目標

2) 労働環境・人員確保

労働環境については、感染対策を実施することと、各個人の生活が脅かされないように支援や面談を行った。有給休暇の取得をはじめ、情報の共有と説明を行い、必要な支援を早期に対応するように努めた。働き方改革を意識した計画をとり、No 残業デーや5日連続休暇取得などの実施に向けて活動を行った。バースディ休暇については100%の取得率となった。

2024年度も昨年に引き続き新人看護師配置はなかったが、中途異動の1年目看護師は指導者の支えもあり、ラダーを取得する事ができた。2年目の看護師及びラダー申請した9名も認定された。

看護師の退職は転職のための就職活動や個人の業務遂行困難などで3名あったが、内1名はパート勤務での再入職をした。中途採用者は看護師2名あり、それぞれの経験を活かした看護介入につなげている。看護補助者は、インドネシアからの特定技能生5名を受け入れた。指導するスタッフは研修を受講するなどの支援体制強化を行い、個々の日本語能力や業務処理能力に応じて夜勤業務も含め、業務に従事できている。認知症患者の見守りや観察も行い、転倒対策にも貢献している。外国人労働者の雇用により、派遣業者による人員を中止し経営的視点で負担軽減ができています。

3) その他

2024年度は高知県及び高知県立大学の「入退院支援事業」に参加し、患者や患者の家族を取り巻く医療従事者と地域に関連する人々との連携を強化しながら、今後実用的な可視化シートの作成に向けて取り組みを続けている。

看護の質向上や専門性を高めるために、学会や勉強会への積極的な参加の働きかけを行った。看護研究へ取り組むスタッフの研修参加、看護協会での学会発表、骨粗鬆マネージャーの学会参加や様々な看護関連学会へ参加をして、研究報告もする事が出来た。年間9題と過去最高の発表数となった。

個人単位ではラダーの申請に取り組んだ者、積極的に研修参加を申し出る者など、学ぶ姿勢としては意識が高い風土があり、その参加の姿勢も自主的になってきている。今後も研究活動や専門性の向上に向けて取り組んでいく。

さらに、DX (Digital Transformation) への取り組みについて、看護業務の効率化を行い、働く環境の充実に向けて積極的に改善・検討・導入をしていく。

委員会報告では、教育・医療安全管理・感染対策の各委員会より次項に報告を添付する。

4. データと主な委員会活動報告

- 1) オルソ教育委員会（添付資料①）
- 2) オルソ医療安全管理委員会（添付資料②）
- 3) オルソ感染対策委員会（添付資料③）

5. おわりに

地域に密着した病院として、これからも個々の患者さんに向き合い、柔軟性をもって適切な医療・看護の提供に努めていく。人口減少に伴う患者数や医療従事者の減少は、時代の流れによることであるが、できることに精一杯向き合っていくようにしたいと考えている。

当院の運営基本方針の中に、”「あなたのために」の気持ちでよき医療人としてすべての人に接する”とあり、当院に関わるすべての人の安全・安心のためにこれからも地域医療の中の役割を考え、「共に歩む・共に喜ぶ」のフレーズを掲げ、医療・看護に従事していく。

近森オルソリハビリテーション病院 教育委員会

副看護部長・教育代表者 山崎 成美

看護部教育委員会では、看護職員の人としての成長と職業人としての能力開発を目指すことを目的とし、①看護サービスに関して看護職員の学習ニーズに対応するために必要な教育を行う②研究活動を指導・支援し発表の場を提供する③外部研修生に対しその研修目的達成するために活動を行った。当院は整形外科及び内科のリハビリ病院であり専門的知識・技術の教育に力を入れており、日頃から熟練した看護が出来る事を目指している。

看護の専門職として常に最善のケアを提供するために必要な知識、技術、態度の向上を促すための学習を支援し、体系的に計画された学習や個々が自律的に積み重ねる学習、研究活動を通じた学習などさまざまな形態をとる学習を支援する事を目的として活動を行ってきた。

特に今年度は、地域包括ケア病棟となり、退院支援を行っていくことが必須となり入退院支援のしくみ作りとスタッフ個々の能力の向上を目指していくことが最優先課題と考えた。

教育委員会活動としては、委員会メンバーが様々な研修の情報を集め、部署スタッフへ研修参加への促しや新人、中途採用や異動者の育成定着、ラダー申請についての支援などを行った。

診療報酬の改定に伴い専門職として求められることも変化していくなかで、看護師、准看護師、介護福祉士、看護補助者が安全に安心して業務を行い質の高いケアを提供できるよう支援をした。

1. 全職種対象研修会

今年度は、計画通りに実施が出来た。必須研修については人数に制限もあった為、実施回数を増やした。また感染の手洗いチェックは、研修期間を1か月間とし各部署で行いその結果、参加率も増えていた。

【表1】全職種対象研修会

3月22日(月) ～3月29日(日)	【必須】医療安全研修会 S-QUE院内研修の視聴「安全文化の醸成」 担当：岡村美紀 シニア看護師長	参加者 133 名 (参加率 94%)
5月1日(月)～ 5月31日(火)	【必須】感染対策研修 衛生学的手洗いと手指消毒の実際 各部署で実施チェック表を提出する	参加者 137 名 (参加率 97.9%)
8月13日(月) ～9月19日(金)	【必須】医療安全研修会 『ヒューマンエラーを理解する』 講師：小松潤子 看護師長(医療安全管理者)	参加者 135 名 (参加率 92%)
9月9日(月)	薬剤管理研修会『こんなこと知っていますか？薬剤の取り扱いについて』 講師：東野愛 薬剤師	参加者 24 名
10月15日(火)	医療機器・医療ガス研修会 医療機器…輸液ポンプ及びシリンジポンプ、ベッドサイドモニター、AEDの使用方法について 医療ガス…酸素吸入、吸引について 講師：近森病院 ME 室(西村哲 臨床工学技師、小川遵 臨床工学技師)	参加者 22 名
11月11日(月) ～11月30日 (月)	【必須】感染対策研修会 『耐性菌について』 講師：鄭 明守 院長	参加者 147 名 (参加率 93.9%)

12月9日（月）	褥瘡研修 『褥瘡の基礎について』講師：西森公美 主任看護師（褥瘡対策管理者）	参加者 21 名
----------	---	----------

2. 看護部研修

今年度は、当院は必須研修がほとんどを占めており、ラダーに応じた研修企画実施が出来ていない現状がある。出席者は教育委員の促しもあり 20 名前後であった。出来る限り日頃の臨床現場で活かせる研修が必要と考え、倫理研修等を企画した、『仕事の中で感じる事の多い患者や家族との間で生じる倫理的問題をディスカッション出来て良かった』との意見もあった。

また近森会グループの看護部目標にあるように、社会情勢に柔軟に対応し地域に求められる役割を果たすことが出来る事を目標に、院外研修へは学会参加も含め 31 件 46 名のスタッフが参加し新しい学びを得ることが出来た。

次年度はラダーに応じた研修を企画し実施したいと考える。

今年度は新人育成を途中から受け入れたが、当院での新人研修の企画はなかった。

【表 2】 看護部研修

4月8日（月）	成果報告会 ・『看護職の生涯学習ガイドライン策定の背景と基本的な考え方』…山崎成美 ・『外来における在宅療養能力向上のための研修』…吉本七 瀬 看護師 ・『実習指導者講習を受講して』…土居さわ ・『訪問看護ステーション研修に参加して』…筒井ますみ 看護師	参加者 13 名
5月13日（月）・ 5月27日（月）	1. 医療制度の概要及び病院と組織の理解 看護補助者の役割の理解、看護職と看護補助者との協働について 講師：中谷明未 看護部長、3 階 矢口操 看護師長	参加者 30 名
6月10日（月）・ 6月24日（月）	看護必要度研修会 講師…看護必要度研修修了者 4 階 秋山有乃 主任看護師	参加者 34 名
8月26日（月）	看護倫理研修 『事例を用いて倫理について考える』 講師…近森病院 急性・重症患者看護専門看護師 池畠真由美 看護師長	参加者 13 名
7月6日（月）	ケースレポート発表会	参加者 9 名
8月29日（月）	看護実践研修 『輸液について』 講師：窪川 渉一 内科部長	参加者 14 名
10月28日（月）	『せん妄認知症対応について』 講師：町野文規 医師	参加者 20 名
11月27日（月）	『骨粗鬆症の知識の共有と FLS の意義について』 講師：骨粗鬆症マネージャー（外来 関恵理 主任看護師、平尾香保 看護師、吉本七瀬 看護師）	参加者 19 名
12月9日（月）	褥瘡研修 『褥瘡について』講師：西森公美 主任看護師	参加者 20 名

3. 看護補助者研修

今年度は、S-QUE クリニカルラダー院内研修の利用と講師を依頼し両方での研修を行った。当院は介護福祉士も同じ研修を受けていることから、全員参加の研修受講が難しく数回に分けて実施している。

看護補助者として経験が少ないスタッフは、主に補助者は周辺業務を行い慣れてきたら直接ケアへ移行してもらうことになる。看護補助者もチームの一員として、患者に安心して療養してもらうことを目標に日々業務を行っている。

今年度はインドネシアから技能性を3名受け入れ周辺業務を行ってもらうために研修企画や実施について語学面で様々な工夫をした。

今後の課題として、全てではないが研修理解度の確認ができていないのと、現在時間外での研修となっている為、業務時間内での研修企画を考えていく。

【表3】看護補助者研修

5月12日（金）	看護補助者の役割の理解、協働について ・医療制度の理解 ・チーム医療の一員となるための役割と責任 ・当院での看護補助者業務について	参加者 18 名
6月2日（金）	接遇マナーとコミュニケーション ・介護の心がまえ ・好感が持てる誠意ある態度とは ・信頼関係とコミュニケーション	参加者 18 名
7月21日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 「ベッドから車いすへの移乗と座り直し」 移乗介護の確認ポイント、端座位から車椅子への移乗介護、 スライディングボード	参加者 19 名
8月18日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 「認知症介護の理解と実践」 認知症の理解、食事入浴排泄のケア、困難事例の対応	参加者 19 名
9月15日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 「守秘義務とプライバシー」 個人情報とは何か、ガイダンスの理解、法的側面の守秘義務	参加者 21 名
10月20日（金）	感染予防について 「手洗いについての演習」講師：関恵里 主任看護師	参加者 21 名
11月17日（金）	医療安全研修 KYT 「KYT グループワーク」講師：小松潤子 看護師長	参加者 18 名
12月15日（金）	S-QUE クリニカルラダー院内研修 安全な食事介助と誤嚥予防	参加者 18 名

4. 看護実習

1.	基礎看護学実習 9/5～9/19 1G	高知中央高校 3年生 6名
2.	成人看護学実習 10/4～10/25 1G	高知中央高校 3年生 6名
3.	老年看護学実習 11/19～11/28 1G	高知中央高校 2年生 6名
4.	基礎看護学、成人看護学補い実習 12/23～12/26	高知中央高校 3年生 4名

今年度の実習については、コロナ禍以降実習施設数が減少している。

高知中央高校についても生徒数の減少から、計画からは当初の実習計画日数より減少していた。そして、実習間隔があくと指導力もやや低下するのではないかと心配したが、実習担当者会での情報共有や看護師長や主任の支援もあり実習指導が問題なく出来た。

また、可能なケアの介入をスタッフと共に実践し、個々の学生に応じた指導にも意識しながら、指導者と教員が連携し関わることが出来たのではないかと考える。

5. その他

(1) 学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
中規模病院の一般外来に就労する看護師の外来所属年数による就業経験の質の違い	関 恵里	第 26 回日本医療マネジメント学会	6 月 21 日～6 月 22 日 福岡
看護師長の成長につながる看護師長の経験	中谷明未	第 28 回日本看護管理学会	8 月 24 日～8 月 25 日 名古屋
看護師長の心理的安全性とそれに影響を及ぼす要因	山崎成美	第 28 回日本看護管理学会	8 月 24 日～8 月 25 日 名古屋
中規模病院の一般外来に就労する看護師の職業経験の質の構造	関 恵里	第 28 回日本看護管理学会	8 月 24 日～8 月 25 日 名古屋
病床機能転換に伴う取り組み～回復期リハ病床から地域包括ケア病床へ	野村由香、山崎成美、岡村美紀、矢口操、小松潤子、中谷明未	第 20 回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会	8 月 25 日 高知市
看護師長の経験に影響を及ぼす承認行為	中谷明未	第 55 回日本看護学会学術集会	9 月 27 日～9 月 29 日 熊本
回復期病院の外来における「骨コツ新聞」活動の現状	吉本七瀬 関恵里、平尾香穂	第 26 回骨粗鬆症学会	10 月 11 日～10 月 13 日 石川
看護部長から受ける承認行為と看護師長の経験と成長	中谷明未	第 44 回日本看護科学学会学術集会	12 月 7 日～12 月 8 日 熊本

(2) 管理者研修

- ・令和 6 年度「看護管理者支援研修」への参加
3 階 矢口 操 看護師長
- ・令和 6 年度認定看護管理者過程ファーストレベル研修への参加
4 階 野村 由香 看護師長
3 階 関 恵里 主任看護師

近森オルソリハビリテーション病院 医療安全委員会

医療安全管理者 小松潤子（看護師長）

1. 委員会活動

医療安全委員会下部会（セーフティスタッフ会）では、10月より①ガイドラインの修正・追加項目についての検討、②環境ラウンドにおけるチェック項目や方法の検討、③研修についての企画・運営、の3つをグループ活動とした。現在も月2回のセーフティスタッフ会のうち1回を活動日とし、ガイドライン見直しやラウンドチェック表改定などの活動時間とした。活動時間を設けたことで、ガイドラインは近森会全体で共通の手順を参考に、各職種の意見も取り入れながら自施設に合わせた内容を検討し、修正できるようになった。

環境ラウンドについては、前年度まではセーフティスタッフが自部署の環境チェックを行っていたが、今年度から他部署スタッフによる相互チェック方式に変更した。視点が変わること、危険箇所や状態に対する気づきが増え、改善につながる事例が増えた。

研修企画・運営のグループについては、すでに2024年度下期の医療安全研修をメンバーを中心に企画・実施予定となっている。

その他安全活動として、リストバンド装着状況調査や、転倒リスクアセスメントに応じた表示（転倒むしマーク・リストバンドへのマーキング）の遵守状況調査など、年間を通して各2回ずつ実施、調査結果と合わせ、再度その必要性についても周知した。

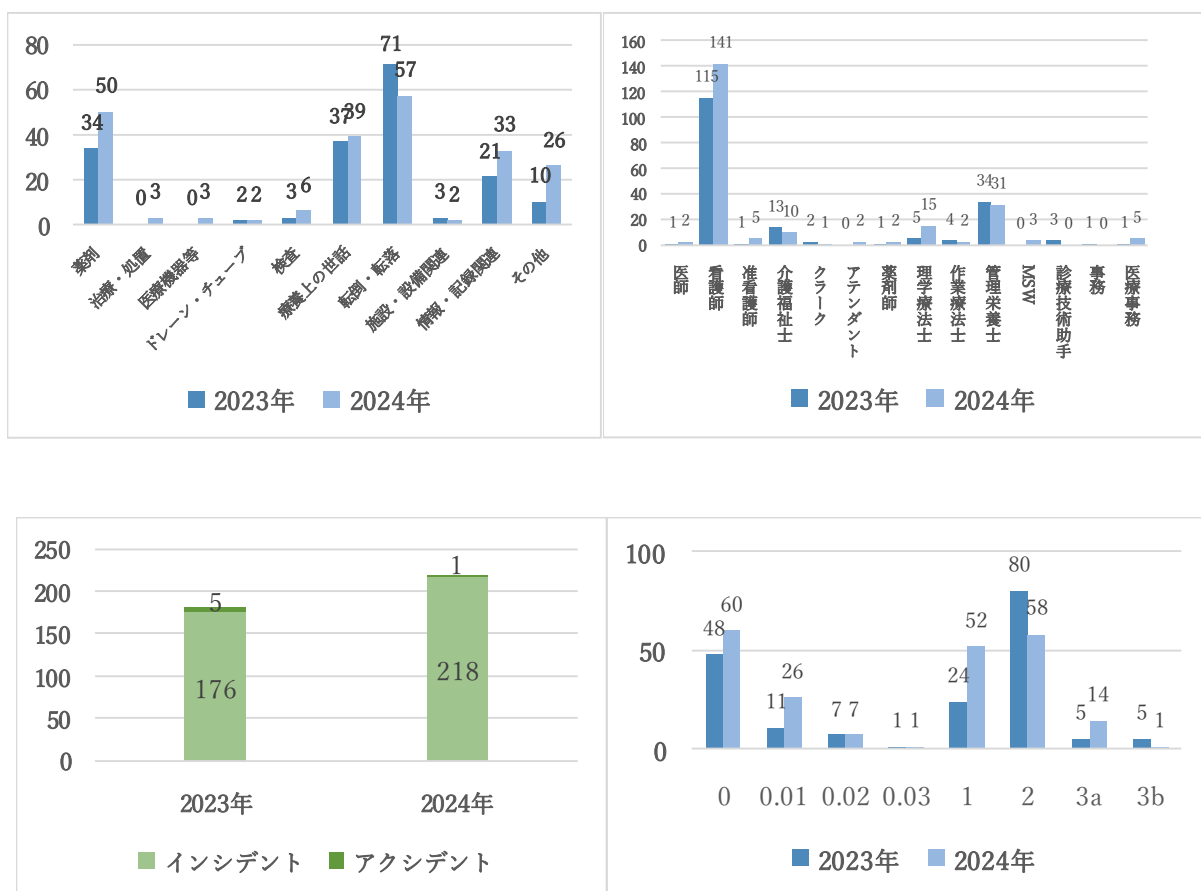
2. インシデント・アクシデント報告

2024年1月から12月の1年間のインシデント・アクシデント報告は、インシデント218件、アクシデント（3b以上）1件の合計219件であった（表1）。前年と比較すると報告件数は40件近く増えているが、事象レベルは0～1の軽微なレベルの報告が増加し、アクシデントは1件と大幅に減少した（表2）。内容別（表3）では2023年に引き続き、最も多かったのは「転倒・転落」の57件、次いで「薬剤関連」の50件となった。

転倒については、2023年度に発生したアクシデント5件の全てが骨折事例となっており、今年度は当院でもころやわマットを導入し、転倒しても骨折しない対策を開始した。導入時には病棟の身体拘束カンファレンスに参加し、患者状態に応じた安全対策・身体拘束について話し合い、新たに導入したころやわマットの使用患者の選定・設置場所についてもスタッフと共に検討した。6月には身体拘束最少化に向けた取組みについてスタッフに周知したことで、徐々にスタッフの意識・行動に変化がみられ、ベッドサイドやデイルームでの見守りが強化された。その結果2024年度の転倒・転落件数は57件と、前年度比－14件と大幅に減少し、アクシデントも1件となった。

反対に「薬剤」「情報・記録関連」については前年度より増加しており、その中でも患者誤認や確認不足によるインシデントが多かった。投薬時の6Rが遵守できていないことや、電子カルテの複数起動による患者間違い等、院内で医療安全ニュースを発行するなど定期的に注意喚起した。

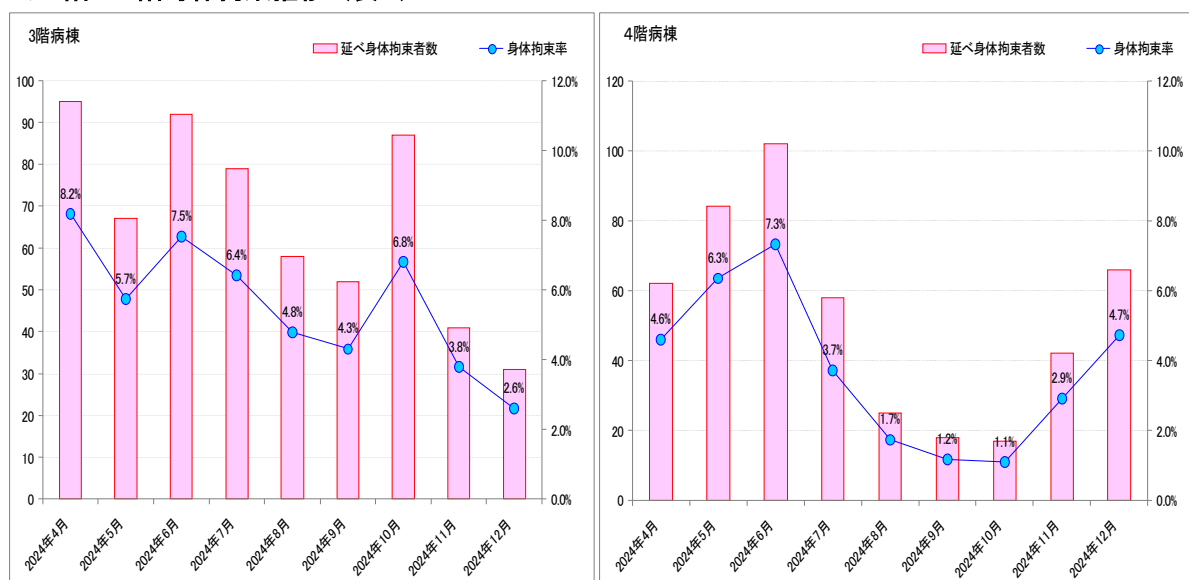
職種別（表4）では、ここ数年かなり報告件数に差があることがわかり、取り組みの一つとして上期の医療安全研修で”ヒューマンエラーの特性やインシデントについて理解を深める”内容とした。部門によってインシデント報告に対し、未だに懲罰意識をもっているスタッフもいたが、研修後のアンケートではインシデント報告に対する正しい理解につながったという意見も聞かれた。今後も引き続き各部門とのコミュニケーションを図り、院内の安全活動に組織全体で取り組むよう働きかけていきたいと考えている。



3. 身体拘束最少化に向けた取組み

2024年の診療報酬改定にて、施設における身体拘束最少化に対する取組みが求められ院内ワーキングを発足。近森病院のワーキングに参加することで指針や同意書、記録等について共有し、当院の運用に向けて院内で検討することができた。6月に各病棟に向け身体拘束について書類を作成し、安全対策と身体拘束の考え方や3つの要件（切迫性・非代替性・一時性）について、説明した。その結果、身体拘束率（表5）については月によりばらつきはあるが3階・4階共に減少傾向にある。

◆3階・4階身体拘束推移（表5）



4. 院内研修会

◆2024 年医療安全研修会の内容と参加率

開催日	研修名	内容	対象者と参加率
2024/3/22～29	2023 年度下期 院内研修会	テーマ「安全文化の醸成」S-QUE 院内研修視聴 ①安全文化が質改善と患者安全に重要であることを理解する ②安全文化にとって、システム思考が重要であることを理解する	全職員 142 名 参加率 94%
2024/4/12	新人研修	①医療安全に対する考え方を理解する。 ・医療安全施策の動向、ヒューマンエラーと防止策：「人は誰でも間違える」からこそ必要な対策、エラーに関する人間的特性、5 S の定義、ヒューマンエラー防止のキーワード等。 医療安全とコミュニケーション、医療安全のための危険予知訓練。 ②医療安全活動の紹介。	新人職員 7 名 参加率 100%
2024/8/13～ 9/19	2023 年度上期 院内研修会	テーマ「ヒューマンエラーを理解する～人は誰でも間違える」 ①ヒューマンエラーを理解する ・避けられない人間の基本特性 ②インシデントレポートについて ・ハインリッヒの法則 ・インシデントを書く目的・書き方 ・2023 年度インシデント報告	全職員 146 名 参加率 92%
2023/11/15	看護補助者研修	KYT（危険予知トレーニング） ・KYT 目的 ・指差し呼称の効果 ・グループに分かれて実際に KYT	看護補助者 介護福祉士 26 名 参加率 100%

オルソリハビリテーション病院 感染対策委員会

オルソ感染対策副委員長 関 恵里（主任看護師）

活動

2024 年度も新型コロナウイルス感染症等の継続した対策が必要であり、『安全と安心な医療の提供と自己を守る』ことを目的に活動を行った。病院全体で継続的で統一した取り組みと、各部署での状況に応じた感染対策が重要となってくるため、感染ミーティングを継続し、各部署の課題の抽出と改善に取り組んだ。さらに、今年度は ICT ラウンドを 1 週間毎に開始し、管理者の視点から各部署における感染対策の見直しを行った。

研修では、感染対策の基本となる「手指衛生」と「個人防護具の着脱」をテーマに、新人職員へグリッターバッグを使用した研修や、個人防護具の着脱の演習を行った。上期の研修でも感染対策の基本である「衛生的手洗い・手指衛生」を各部署の ICT が中心となり手技の確認を行った。下期の研修では、「耐性菌について」院長が講義を行い、当日研修を受講できない職員は各部署の ICT を中心に、セーフマスターも活用した方法で研修を行い、ほぼ全職員が受講することができた。さらに、今年度は院外研修「感染管理担当者研修」にも 1 名参加することができ、貴重な学びの経験を得ることができた。

しかし、2025 年 1 月に入院患者の新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、収束するまでに多大な労力を要し、基本的な「手指衛生」と「PPE 管理」への課題が明らかになった。感染状況の把握と対策に迫られる日々であったが、オルソ全職員が寄与するところが大きく、今後も明らかになった課題解決も含め、オルソ全体として取り組んでいけるよう感染対策活動を行っていきたい。

表 1 2024 年 1 月から 2025 年 1 月院内外研修会

研修日	研修会名	参加人数
4 月 12 日	オルソ新人教育（感染研修会）	7 名
4 月 1 日～ 30 日	オルソ新人・異動者 PPE 研修	8 名
5 月 1 日～ 31 日	2024 年度オルソ感染研修会・上期 『衛生的手洗い・手指衛生』	137 名
9 月 28 日～ 1 月 25 日	令和 6 年度高知県看護協会 「感染管理担当者研修」	1 名
10 月 18 日	看護補助者研修（感染研修会）	17 名
11 月 11 日～ 11 月 30 日	2024 年度オルソ感染研修会・下期 『耐性菌について』	147 名

職場巡視：2 名以上の多職種で 1 週間毎

ICT ラウンド：多職種で 1 週間毎

週報と菌の感受性報告：1 週間毎

マニュアル改訂

感染ミーティング：4 週間毎

オルソリハビリテーション病院 感染対策下部委員会：第 4 水曜日

オルソリハビリテーション病院 感染対策委員会：第 2 水曜日